

ご あ い さ つ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協会会長
愛知県立五条高等学校長
伊藤正樹

会員校の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素から本研究協議会の活動に格別のご支援とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

私は、1年前の総会（紙面開催）において前任の森也寸志会長の後を受け、本会の会長に就任しました。今年度はコロナウイルスへの対応に迫られ、コンクールや研究会も規模の縮小やオンラインでの実施を余儀なくされましたが、会員校の皆様のおかげをもちまして、本会の運営を無事に成し遂げることができました。ありがとうございました。

文部科学省が2019年末に「GIGAスクール構想」を打ち出し「一人一台パソコン」も普及しつつあります。ともすると「一人一台パソコン」は、コロナ禍対応のためのように思えますが、実際は単にパンデミックや災害時の対応が目的ではありません。現代においてPC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであり、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常となっています。文部科学省によれば「GIGAスクール構想」は、**Society 5.0**時代に生きる生徒たちにとって、社会を生き抜く力を育み、生徒たちの可能性を広げることが目的であると謳っています。1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。そんな中、オンラインで8月に開催されました「第59回東海北陸地方放送教育研究大会」では愛知県の2名の先生と石川県の1名の先生から発表をいただきICTの活用について大きな可能性を感じることもできました。視聴された先生方は私も含めて大きな刺激を受けたことと思います。

また、令和2年度には中止となりました「NHK全国放送コンテスト愛知県大会」ですが、通常開催とはいきませんでした。データ審査にてなんとか実施することができました。そして1月には、コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、「第37回愛知県放送コンテスト新人大会」を実施することができました。少しずつですが通常の活動に近づいてきていることを感じます。コンテストが縮小規模でも再開できたのは、関係の先生方の熱意と熱心な先生方の生徒へのご指導の賜物であると思います。先生方のご尽力に対し、重ねてお礼申し上げます。

この「視聴覚のあゆみ」は令和3年度の本研究協議会の活動をまとめたものです。コロナウイルス対策に迫られながらも県内5地区のすべてから活動報告をいただき、成果発表などを掲載することができました。この「視聴覚のあゆみ」が各学校の魅力ある授業や教育活動の一助になれば幸いです。

最後に、本研究活動を企画し運営された皆様、また「視聴覚のあゆみ」第58号の制作にご協力いただいた皆様をはじめ、多くの関係の皆様へ感謝申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。